

医学規範

The Canon of Medicine

イブン・シーナーの発見された著作は180を越えるとされている。しかし、その波乱万丈の人生において、多くの作品は盗まれ、またはなくなってしまったという。その著作は医学や哲学にとどまらず、音楽、宗教、心理学、数学、星占い、天文学、及び文学など数多く存在している。著作の中で、特に医学規範と治癒の書が世界的に有名である。イブンシーナーが著作を書くときに、その弟子、アブー・アビード・ゲーズガーニー（ジュズジャーニー）から次のような有名なエピソードがある。

『ある日、先生に治癒の書を完成するようにお願いした。すると、紙とインクと筆を用意しろといわれた。全くの参考書なしに、治癒の書の項目だけを書いてしまった。そしてそのあと、各項目の解説を始めた。参考書や引用文献なしに、すべて記憶と経験に基づいて、毎日およそ50枚を書いていたという。

イブン・シーナーの代表的な名作というのは「医学規範」であろう。イブン・シーナーが著した医学規範は、ギリシャ医学、中国医学、インド医学、ペルシャ医学やアラビア医学などを総合したものである。

当時、ペルシャは東西文明の窓口として、世界中の哲学書や医学書などがペルシャ語やアラビア語に訳されていた。イブン・シーナーがその奇才な記憶力で当時の全てのこれらの書物を解読した古都から、ヒポクラテス医学、ガレノス、アーユルヴェーダ等々の、現在失われていてその存在すら知られていない書物の全てを解読し、総まとめして、また自らの臨床経験を加えて、医学規範という永遠不滅の医学大事典を書いた。医学規範の中で、時にヒポクラテスやガレノスなどの供述を記載してそれを誉め上げ、また時よりヒポクラテスやガレノスなどの供述を理由をあげながら批判している。

医学規範は不思議な書である。ある厄介な病気に対して様々な治療方法を行い、結果が得られない場合は、その解消法は必ず医学規範の中にあると言われている。

医学規範（アラビア語名：Al-ganun-fil-tibb、ペルシャ語名：Ganun-dar-tebb、英語名：The Canon of Medicine）は全五巻でその全内容は百万語からなる超大作である。原著はアラビア語であるが、今までにその全内容がペルシャ語やロシア語などに訳されている。2013年に中国でも「医典」のタイトルで中国板が発行されているようである。

特にその第一巻は英語や世界中の様々な言葉に訳されている。しかし、残念ながらペルシャ語版以外には、その殆どは誤訳が多く見られ、また原著で難解な言葉を「？」のマークで示したり、あるいは除外したりしていることが多い。「？」のマークというのは、その意味を知らない、または判明しない単語や部分や難解の部分あるいは確信がない単語や部分につけられている。

アラビア語で書かれているといっても、アラビア語を専門とする専門家たちも、医学規範に記載されている薬名や用語に困っている。

なぜ、ペルシャ語版のほうには「？」のマークがなく完全訳であるかというと、これはつまり当時において、医学規範は確かにアラビア語に書かれているが、それはペルシャで書かれたものであり、またその中にはペルシャ語やトルコ語、クルド語などの、アラビア語にない用語は沢山入っているからである。ペルシャは昔から他民族の国歌であり、一つの薬はさまざまな地方の言葉で呼ばれている。イブン・シーナーも薬名をその時の気分によってさまざまな地方の呼び名で書いている。

したがって、訳者たちがこれらの用語の意味をアラビア語で追求しても殆ど見当たらないものである。当時、ペルシャにおいて、アラビア語が主流語であったが、各地方においてそれぞれの民族が自分の言葉で交流し、そして医薬品やその他の商品にその地方や民族特有の名称があったことは確かである。また、前述したように、イブン・シーナー自信もトルクマニスターンのボハーラーの出身であった。トルクマニスターンはトルコ系民族で、当然トルコ系語も行われていた（現在もそうである）。

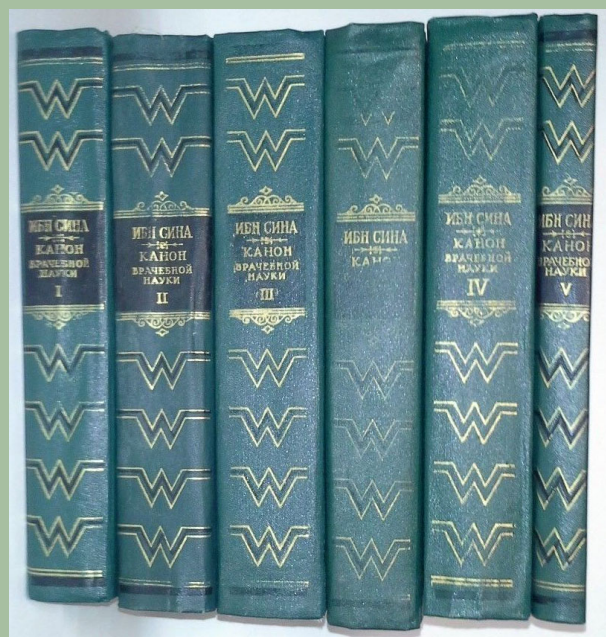
ちなみに、インドでは医学規範を完全英語で出版され、英語圏でも使われることが多いが、薬名はすべてインドに植える薬草の名前に訳している。そのため、誤訳が多いとされている。

アラビア語で書かれている医学規範は一巻であるあるが、その内容は五つの区分になっている。ペルシャ語では各区分を独立した冊にまとめ、全五巻（計七冊）になっている。第三巻はその内容の膨大さから三冊になっている。その内容は膨大な量の約百万語からなっている。

尚、医学規範のペルシャ語の最新版は8冊からなっている。第8巻は索引になっている。



医学規範 ペルシャ語の初版（全7冊）



ロシア語の医学規範（6冊）

医学規範の内容の要約は以下の通りである：

第一巻は、四つの学問からなり、基礎医学の解説、解剖学、病因、衛生と身体健康管理、診断（脈診、尿診、便診など）および様々な治療法〔瀉血法、浣腸法、瀉下法（下剤法）、嘔吐法など〕などが記載されている。

第二巻は、単純薬の巻であり、自然界にある八百十一種の植物、動物、鉱物の単純薬をアラビア語のアルファベット順で、各薬の産地、性質、効能（全身的な効能および身体各器官に対する効能）、各薬の使用量、薬の代用物（その薬と同様な作用のある他の薬）を詳しく説明している。

第三巻は、最も内容が多いもので、身体各器官の機能生理とその病理及び治療を解説するものである。第三巻は二十に学問からなる。第三巻の第一部（一冊目）は一つの学問からなり、それは頭部、脳、神経、眼、耳、鼻、口および舌、歯、歯茎および唇、喉、扁桃腺、胸部、心臓、乳房からなる。第三巻の第二部（二冊目）は、三つの学問からなり、食道と胃、肝臓、胆嚢、脾臓、腸と肛門からなる。第三巻の第三部（三冊目）は、腸と肛門、腎臓、膀胱、生殖器および身体に発生する諸病についてである。

第四巻は、様々な熱病、様々な病気の悪化などの予知法、腫物（腫瘍、ニキビなど）、傷（外科）、傷と潰瘍、及び整骨学からなる。

第五巻は調合薬の分野、その特徴や作り方、及び各病に対する効能について記載されている。

このように医学規範というのは自然医学の超大作であり、イスラム文明とともに、ヨーロッパやインドなどに輸出された。またチベット医学にも大きな影響を与え、チベット医学の基礎はユーナニ医学をベースにしているという学者もいる。インドではユーナニ医学の独立した大学があり、医学規範は教科書として今も使用されている。

革命後のイランにも、伝統医学への関心が高まり、テヘラン大学を初め主な大学の医学部に伝統医学の学部が設置され、内外から多くの学生が勉強している。

イブン・シーナーの医学規範はヨーロッパに輸出されたときに、ヒポクラテス派の医師たちを震撼させ、ラテン語やそのたの言葉に翻訳された。中世ヨーロッパでは医学規範を「宇宙の書」と崇められた。ヨーロッパの医学規範の翻訳本の中に、イブン・シーナーが中央で左右側にヒポクラテスとガレノスの像が描かれたイラストがあり、これは当時イブン・シーナーの影響力を示すものであろう。



ガレノス

イブン・シーナー

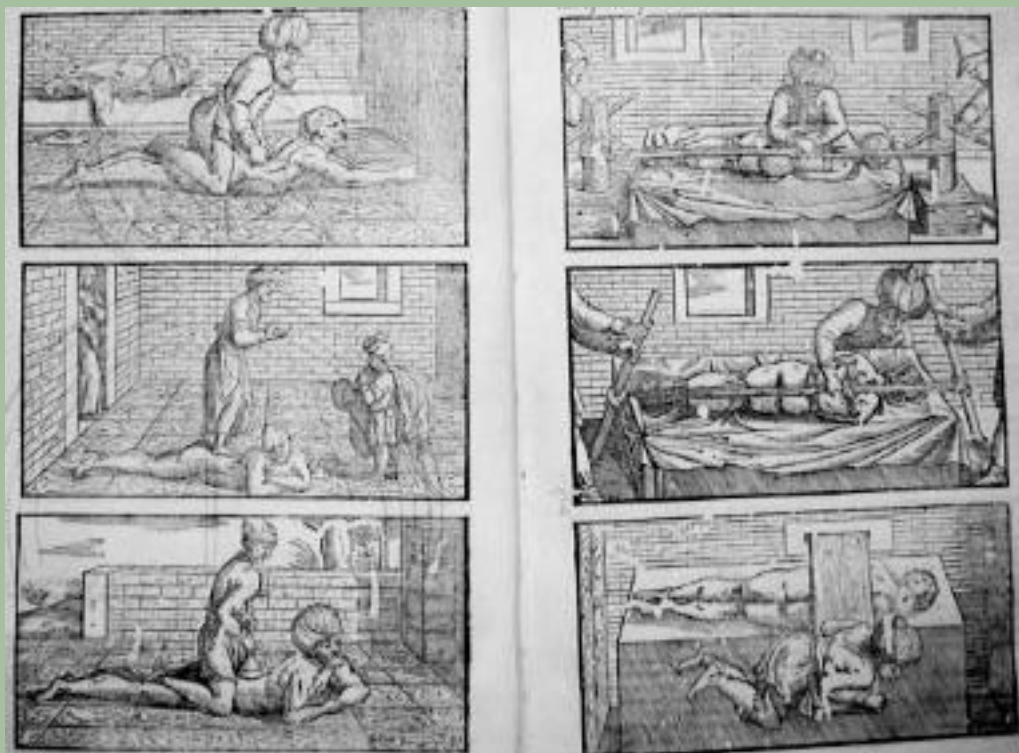
ヒポクラテス

事実、18世紀までに、近代医学が社会に勃興するまで、実際に医学教科書としてヨーロッパの大学で使用された。また筆者が医学規範の整骨編の部分を日本語に訳したときに気付いた点としては、16世紀に出版されたフランスのアンブロアズ・パレ (Ambroise Pare)によって書かれた有名な外科書の整骨編の殆どはイブン・シーナーの医学規範の第四巻の整骨編の引用である。しかしパレやその研究者たちがイブン・シーナーの医学規範を否定しているが、これは紛れもなく医学規範の引用で、ヒポクラテスの影響は少ない。なぜならば、イブン・シーナーが整骨編においてヒポクラテスの供述を時より参考にしているものの、全体像から見ればヒポクラテスの整骨編とは内容は全く違うものである。無論パレやその研究者たちがイブン・シーナーの影響を否定しているということは当時のヨーロッパにおいてイスラム文化に対する反抗があったからであろう。後に、アンブロアズ・パレの整骨書は外科の源流！！として、日本の整骨技法に歴史的な影響を与えたということは研究者たちの間で知られている。

参考及び引用文献：ユーナニ医学入門 (S・パリッシュ著・ベースボールマガジン社発行)

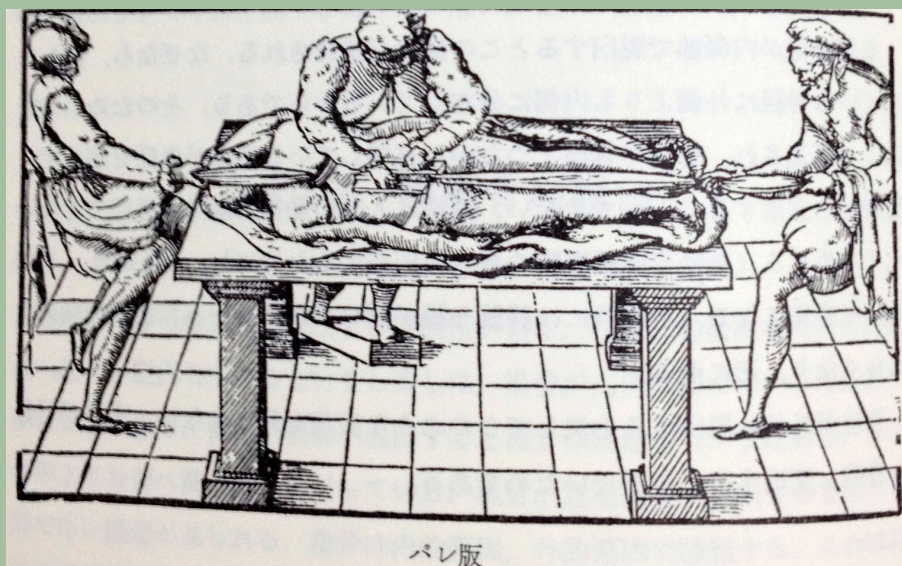
イブン・シーナーの整骨書 (S・パリッシュ著・ユーナニ医学協会発行)

アンブロアズ・パレ骨折篇・脱臼篇 (木村敏郎/東京都柔道接骨師会訳)



15世紀に発行された医学規範に記載されている整骨の画像。

イスラム風の施術者の画像はヨーロッパ風に改ざんされ、マルゲーニユとバレの整骨書に記載された。



バレ版

バレの整骨書の中にある脊柱の整復法

[戻る](#)